

令和5年度 学校自己評価結果等報告書

学校名（ 豊岡市立豊岡北中学校 ） 校長名（ 戸田 康夫 ）

1 学校教育目標

○校訓：誠実
○学校教育目標：ふるさと豊岡を愛し、自らを高め、未来への道を切り拓く生徒の育成

2 学校教育推進の視点

○安全・安心で規律ある学校
○笑顔と人間愛にあふれた魅力的な学校
○保護者・地域に信頼される学校
○地域の特色を生かし、創意工夫する学校

3 総合的な自己評価

「生徒に寄り添い、生徒の事実から学ぶ指導体制」を意識した実践を心がけた。生徒アンケートでは、「先生はあなたの良いところを認めてくれている」と思う生徒が87.6%、保護者アンケートでは、「こどもの頑張りや努力を適切に評価している」と答えた保護者が88%となり一定の成果が認められた。しかし、さらなる向上を目指すことに加え、働き方改革の視点では職員の多忙感を軽減することが難しく課題として残った。

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

・生徒、保護者、職員アンケートの項目を変えず、複数回実施して数値等の変化について検証することができている。
・アンケートだけではなく、学校評議員や同窓会との会議、PTA本部役員会、運営委員会等の会議などにより地域・保護者の方々からの意見をその都度聴取できている。

6 総合的な外部評価

アンケート結果は、昨年度よりやや低下しているが、学校として全力で子どもたちのために頑張っていた。評価結果の根拠や理由も適切に自己評価し改善に向けた取組の様子がうかがえる。学校教育活動の取組には全職員が協力して推進に尽力されている感がある。しかし、近年、家庭における問題点も多く、子どもたちの実態を把握し、保護者、地域、同窓会に対して「もっとこうしてほしい、生徒のために！」というメッセージをさらに出されてもよいと感じる。教職員の人間関係が良好でハラスメントがないと答えられていることはすばらしい。このよいチームワークを構築されていることに敬意を表すとともに、日頃の尽力に感謝したい。

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	5つの継続・実践徹底事項の推進、生徒が主体的に学ぶ授業づくり	B	・ 個に応じた指導や授業形態の工夫、授業のUD化、ICT機器を活用する。
	・ 道徳教育	授業時間の確保、研究授業、評価研修、道徳実践力の育成	A	・ 思いやりの心や仲間意識の醸成を目指す指導方法を研究し実践する。
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	交流活動を意識した言語活動の充実、4技能の総合的な育成	B	・ 兵庫型学習システムの充実と家庭学習の定着を図る指導を行う。
	・ 総合的な学習の時間	キャリア教育、ふるさと学習の充実	B	・ 地域教材に学ぶための外部講師・地域人材の活用を行う。
	・ 特別活動	生徒の主体的活動の場の設定	A	・ 生徒会活動の活性化を一層推進し、生徒の主体性・自立性を高める。
学校運営	・ 開かれた学校づくり	情報発信、保護者・地域との連携、外部講師招聘、オープンスクール	B	・ 学校だより、Webページ等による情報発信とオープンスクールを実施する。
	・ 勤務時間の適正化	業務の能率化と定時退勤日、ノ一部活・会議デーの完全実施	C	・ 生徒とかかわる時間確保のための意識変革と諸会議の効率化を推進する。
	・ 引継ぎ連携システムの強化	連携シートの有効活用、小中間の授業参観、体験授業	A	・ より緻密な小中間の情報共有と連携した会議や研修を実施する。
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	生徒に寄り添う姿勢での生徒指導、情報共有と協働体制の強化	B	・ いじめアンケートやアセスの実施とその結果を学級経営に積極的にいかす。
	・ 職員研修の推進	講師招聘による研修、授業研究の実施、伝達研修	B	・ 一人1回以上の授業研究と全職員による道徳授業研究を実践する。
	・ 危機管理体制の整備	施設安全の管理体制の強化、実効性のあるマニュアルへの見直し	B	・ 関係機関とのさらなる連携をめざした交通安全、防犯教室等を実施する。
課題教育	・ 非認知能力の向上	達成感や自己有用感を高める指導の工夫	B	・ 生徒と共に活動しその活動の事実から最適なタイミングでの評価を行う。
	・ ふるさと教育	ふるさとを愛し、自分の言葉でふるさとの紹介ができる生徒の育成	B	・ ふるさとの人材・施設・環境を活用した教育や体験活動を実施する。
	・ コミュニケーション教育	自分の考えを主張し、他者の考えを受容することができる生徒の育成	A	・ コミュニケーション授業の実践と活用に対する適切な評価を行う
	・ キャリア教育	将来への夢を描ける生徒の育成、キャリアノートの活用	B	・ 社会体験活動による生き方学習の実践やキャリアノートを活用する。
	・ 人権教育	いじめを絶対に許さない校風と思いやりの心の育成	B	・ 人権尊重の理念について、あらゆる教育活動を通して理解を深める。
	・ 特別支援教育	支援を要する生徒への適切な対応、全職員の共通理解のもとでの支援	A	・ 支援を要する生徒への効果的な関わりと専門機関と連携した指導を行う。
	・ 環境教育	教科、特別活動などでの取組の充実、花壇整備と花や野菜栽培	B	・ 地域や施設との連携をいかし生徒の積極的な活動の場をもうける。
	・ 安全教育・防災教育	毎月の安全点検、交通立番、防災訓練、交通安全教室の実施	B	・ 健康で安全な生活の重要性の認識や減災を目指した生活を確立する。
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	眠育指導の継続、保健だよりの発行、健康相談の充実	A	・ 眠育記録表を用いた指導の継続と日常の健康教育を充実する。
	・ 読書活動	朝読書の実施と図書室の整備、家庭読書の推奨	C	・ 委員会活動との連携し、家庭と連携した読書習慣の定着をはかる。

自己評価の妥当性
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員による自己評価だけでなく、保護者アンケートや生徒アンケートの結果を積極的に活用し総合的に評価した。また、PTA運営委員会、学校保健委員会等々でいただく意見・評価を参考にした。 ・ 職員会議等で保護者アンケートの文章表記の意見や来校者の意見・感想などは共有し、迅速な対応に努めた。 ・ 保護者アンケートの回答率は63%であった。例年並みであり評価への一定の信頼性はあるが、回答率を上げる必要性がある。 <p>【教育課程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒の学ぶ意欲（主体性）が高まっているとの回答が78%と前年度比9ポイント低下している。学習指導において「5つの継続・実践徹底事項の実践」を89%の教職員が実践している。 ・ 「学力を伸ばすため、きめ細やかな授業を行っているか」について、73%の保護者が肯定的に回答している。 ・ 道徳教育に関して、「道徳の時間を要し豊かな心を育む教育に取り組んでいるか」について97%の教職員が肯定的に捉えている。 <p>【学校運営】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の情報発信について満足している保護者は86%に達している。 ・ 勤務時間の適正化の推進については65%の教職員が肯定的に回答しているが、業務改善が進んでいない実態がある。 ・ 生徒に寄り添う生徒指導を推進した結果、生徒から教職員への教育相談が増え、いじめを含むトラブルへの早期対応ができた。 <p>【課題教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「共通理解のもとに交流及び共同学習を適切に実施できているか」について97%の教職員が肯定的に回答。 ・ 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかった」について95%の生徒が肯定的に回答している。 ・ 「夢や希望を持っているか」の問いに約30%の生徒が否定的に回答。また、進路についての情報提供や指導について、不十分だと感じている保護者が30%いる。 ・ 生徒の読書活動が充実していないと感じている教職員が32%、家庭での読書は73%の保護者が不十分だと感じている。